

平成27年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」  
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立大和川中学校

平成28年3月

大阪市立大和川中学校 平成27年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【視点 学力向上】全国学力状況調査の「学校の規則を守っていますか」の項目で「当てはまる」（どちらかといえば当てはまる）を95%以上にする。を中期目標とした。26年度は、80.7%であった。しかし、数年前には生徒の規範意識の低下による学校秩序が崩れたことがあった。今一度、授業の成立を基本に、自ら学ぶ姿勢を育成することが重要課題である。

【視点 道徳心 社会性の育成】道徳の授業を要として、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。全国・学力状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で「当てはまる」昨年度より5ポイント増加させる。26年度は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」で87.2%であった。（全国：94%）

【視点 健康・体力の保持増進】体力調査においては、男子は大阪市平均に僅差の数値になってきた。女子は昨年度生徒比較では体力合計で6P上昇している。今年度は、すべての項目において大阪市を上回る取り組みを推進する。

【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】第2回大和川地域音楽フェスティバルを開催（12月22日）山之内小学校、遠里小野小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校の音楽関係の部活動等が本校に集まり開催されました。地域連合町会やゆうけい特別養護老人ホーム、保育所など多くの団体と連携し、300名を超える地域の参加がありました。今後、地域防災教育と連動し、地域の方と中学生の交流の場を拡大する取り組へ発展させることが課題である。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力向上】漢字検定を1、2年生全員に実施する。課題学習の提示、定着を図る。

【視点 道徳心 社会性の育成】規範意識の向上と集団づくりの充実。道徳教育の進化・充実。（大阪市中学校「頑張る先生」で発表 11月）

【視点 健康・体力の保持増進】体力調査における各項目の大阪市を上回る取り組みに充実。

【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】第3回大和川地域音楽フェスティバルの開催を通して、地域防災教育への連動する地域連携組織づくりへ発展させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

現在（28年2月）の学校現状は、生徒自らが学校生活に目標を持ち、主体的に学習および部活動を行う学校に改善されてきた。朝の登校では、8時25分にはほぼ全員が登校できる。遅れそうになれば走って登校する姿が当たり前になった。生徒会活動では、1か月の目標を校門に張り出し、みんなで守り、作り上げる学校づくりが進んでいる。学力面では、授業規律を大切にしたい授業の確立と魅力ある授業内容の工夫を行った。また、教科・学年で、漢字検定の取り組みを活用し、家庭学習の習慣化に取り組んだ。習熟度別学習の定着や学習サポーター制度の活用、不登校傾向の生徒への支援体制（生活指導支援員の配置）など、きめ細かな学習支援を確立させ、落ち着いた環境の中で教育内容の充実を図った。数値では、「学校の規則を守っていますか 92.4(26年度 80.7)」目標(95)には届かないが、11.7%上昇した。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか 91.0(26年度 87.2)」目標(5%上昇)の達成はできなかったが、3.8%上昇し、25年度(90.9)をも上回った。

(様式 2)

## 大阪市立大和川中学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力向上】</p> <p>○ チャレンジテスト (1, 2 年生) における正答率を大阪市平均に近づける (カリキュラム改革関連)</p> <p>○ 学校教職員アンケート調査で「発表や話し合いのなどを取り入れた授業を積極的に行っている」よくあてはまる、おおむねあてはまるを、前年度より向上させる。 【26 年度 53%】 (マネジメント改革関連)</p> <p>○ 全国・学力学習状況調査の「学校の授業以外の時間に家庭で全くしない (塾含む)」が 18 ポイント。(全国より 8 ポイント高い) 全国平均に近づける。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【習熟度別少人数授業の実施】</p> <p>国語・数学・英語の 3 教科では、授業内容、授業形態の工夫を含め、きめ細かな指導により、個に応じた学習指導を行う。定期テスト、実力テストで「知識理解、思考力、判断力、表現力など基盤となる評価項目に沿って問題を作成する。国語科では、漢字検定 (1, 2 年) を実施し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>指標 定期テスト等による系統立てた学力分析。 全国・学力学習状況調査プレ実施。 各教科の学習定着度の通過表などを通じて、学力実態の分析を行う。 朝学習の時間帯の有効活用 (生徒集団の質向上) 1, 2 年生 漢字検定 全員受験の取組実施 (校長戦略予算)</p>	B
<p>取組内容②【授業力向上のための研究授業及び教員相互参観の充実】</p> <p>・教員相互による授業方法を交流し、「発問の仕方」「学習規律」「課題の設定」など教師力の向上を図る。研究協議の充実を図り、明日につながる授業づくりに生かし、生徒へ「わかる授業づくり、魅力ある授業」を提供する。</p> <p>指標 アドバイスシートによる全教員相互参観 年 2 回実施。 研究授業および研究協議 年 3 回 (6 名) 大阪市「頑張る先生」(道徳) 発表 授業アンケート「授業がよくわかる 70% 以上」 教職員アンケート「発表や話し合いのなどを取り入れた授業を積極的に行っている」60% 以上。授業参観保護者アンケート参考</p>	B
<p>取組内容③【定期的な宿題提示及び自学自習の確立への取組】</p> <p>家庭学習習慣定着のための、各教科による日々の宿題の提示。週末には、課題学習の提</p>	B

<p>示および点検。学習習慣の定着をめざす。学校元気アップ地域本部事業による自学自習力確立への手だて提示する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>日々、宿題 やりきり生徒数 100% (各教科担当等)</p> <p>週末課題 やりきり生徒数 100% (各教科担当等)</p> <p>朝学習会の時間帯が生徒の手で運営できるようにする。学級集団づくり学習意欲づくり長期休業中の課題設定 (各教科等) 及び学年別補充学習会の実施。</p> <p>元気アップ地域本部事業 (充実) 全校生徒の3割参加 (130名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期テスト前 放課後学習会 5回実施 1回 5日間</li> <li>夏期・冬期 3年生 学力アップ集中講座 計10日間 実施</li> <li>放課後学習会 2学期より実施 3年生</li> <li>英語検定、希望者への学習会実施 (10日間)</li> </ul> <p>家庭・地域への啓発 (学校・学年だより等) 年10回</p>	
<p>取組内容④【小中一貫教育の推進】</p> <p>9年間を通して、めざす子ども像「場の応じたあいさつがしっかりできる児童・生徒を育てる」を目標に、教育内容を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>連携行事 (中1情報交換、体験学習、部活動体験学習) 実施</p> <p>体育大会 小学校6年生対象の体育大会見学実施</p> <p>教職員研修 (道徳、人権、英語、ピア・サポート研修等) 2回</p> <p>教員相互授業参観の実施 3回</p> <p>定例の校長部会 教頭部会 職員部会の開催 年8回</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>学校秩序の回復・維持・発展と学力向上の関連性は必然である。生徒アンケートより「時間を守る(90%)」「ルール・マナーを守る(91%)」と指導が浸透し、「楽しく学校生活を送っている(85%)」と安心して学校生活を送れる雰囲気が出てきた。学力面では、授業規律の徹底を図り、分かる授業の創造に取り組んできたが、「授業はわかりやすい68%(26年度53%)」と改善はみられるが、まだまだ低い。</p> <p>習熟度別学習定着や学習サポーターの導入などきめ細かな指導に尽力した。また、1,2年生では漢字検定を受検させた。週末課題、長期休業中の課題などで学習習慣の定着を図った。教員の相互参観や研究・公開授業は、充実しており、教員相互の授業力向上につながっている。</p> <p>「発表や話し合いなどを取り入れた授業を積極的に行っている」の項目では、57%で目標達成(60%)を下回った。また、学習習慣においては、「家庭で復習をしない34.1%(26年度40.7%)」「予習をしない37.9%(26年度52.1%)」など、改善はみられるがまだまだ低い。家庭学習習慣への啓発および学習への意欲向上を図る必要がある。</p>	
次年度への改善点	
<p>「分かる授業の進め方、学ぶ喜びを教え、自尊感情を育てる」を基本に、教師が授業力(指導力)を高め、生徒の学習意欲を高める。やればできるという自己肯定感を持たせたい。</p> <p>1. 授業規律の徹底を図り、分かる授業の創造を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導力(授業力)を高めるため、公開授業や研修を積極的に推進する。</li> <li>習熟度別学習の定着、学習サポーター制度の活用、不登校生への支援体制を整え、き</li> </ul>	

<p>め細かな支援を確立させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のはじめに目標（ねらい・めあて）を示し、最後に学習活動を振り返るよう授業改善を図っていく。また、I T Cモデル校としてタブレット等を活用していく。</li> </ul> <p>2. 3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進により、学習の目的を生徒に持たせ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>3. 学習習慣の定着と学習集中力を育成するため、保護者への啓発を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の定着をめざし、週末課題の取組みを継続する。</li> <li>・家庭での基本的な生活習慣の確立と保護者を学校へ招く機会を増やす。</li> </ul> <p>4. 朝読の取組みの推進と図書館活用の活性化を図る。</p>
---

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○ 道徳の授業を要として、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的实践力を育成する。全国・学力状況調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を93%以上にする。（全国と同じ）〔27年度〕 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○ 生徒自らが学校のルールを守る姿勢を身につけ、目的意識をしっかりとった教育活動を推進する。全国・学力状況調査の「学校の規則を守っていますか」の項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」を95%以上にする（〔26年度〕） (カリキュラム改革関連)</p> <p>○ 社会的・職業的自立に向けて、発達段階に応じて体系的・系統的なキャリア教育に取り組む。 (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 道徳教育の推進 】</p> <p>道徳教育委員会を中心に年間指導計画・読みのも教材指導案を作成する。 生徒一人ひとりに、「自分の生き方を見つめ直し、これからの生き方にどういかしていくか」という課題設定で実践を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>全市教育研究発表会（道徳）発表 道徳授業（読みのも教材活用 各学年 20 本の実践、合計 60 本） 土曜参観で道徳の公開授業実施（11 月、12 月） 校内道徳研修会 4 回実施 校内自主道徳研修会 5 回実施 道徳通信を 1 か月に 1 回 発行する。（保護者・地域啓発）</p>	B
<p>取組内容②【 規範意識の向上 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「言葉づかいは心づかい」「元気よく・気持ちよく、あいさつしよう」の実践。身だしなみを整え、生徒自らが『時間を守る』姿勢を身につけさせる。</li> <li>・体罰根絶への指導体制を確立させ、生徒理解を深める研修会および相談活動の実施</li> </ul> <hr/> <p>指標</p>	C

登校遅刻ゼロの達成 チャイム着席の定着 正しい服装の着こなしの徹底 生徒会中心による「学校生活充実のための討論会」の実施 生徒理解を深める 「生徒指導研修会」実施 5月 生徒理解を深める 「教育相談活動」年2回 随時 体罰ゼロの教育活動を推進する	
取組内容③【 キャリア教育の推進 】 キャリア教育年間計画に沿って、系統立てた教育内容を推進する。 ----- 指標 進路講話（3年）職業について（2年）仕事しらべ等（1年）実施	B
取組内容④【 防災教育の推進 】 「警備及び防災の計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。 ----- 指標 火災、震災訓練の実施。地域別下校訓練。消防署による防災訓練（2年生）地域防災訓練へ参加。	B
取組内容⑤【 不登校傾向生徒への対応 】 ・生徒の状況把握を図り、全教職員で共通理解し、個別の具体的な手立てを講じる日常的にカウンセリングを行い、生徒の心の変化を早期に把握する ・生徒指導担当者を活用した、心のケアが必要な生徒への別室対応の充実 ----- 指標 週1回 不登校傾向生徒の状況把握。改善方針の確認 月1回 全教職員と状況把握 カウンセリング週間の実施（年2回） 心のケアが必要な生徒の学校生活保障。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
1 2月実施の生徒・保護者アンケートより生徒：「学校のルールやマナーを守っている91%」「時間を守って学校生活を送っている90%」「楽しく学校生活を送っている85%」である。保護者：「お子さんは、楽しく充実した学校生活を送っている75%」である。 アンケート結果から、学校の学習環境が安定し、子どもの意欲を引き出す取組に成果が表れている。 1. 道徳教育では、週1回の道徳で読み物資料を活用している。授業では、自分の考えや人の発表を聞いて、人間としての生き方を学ぶ機会として継続している。 1年生では朝読書に教室文庫をつくり、読み物資料冊子を読んでいる。 2. 防災教育では、2年生で「地域防災リーダー育成研修」を消防署と連携して行った。災害時の適切な動きを身につけることはもちろん、災害時に地域で活躍できる生徒の育成を目指し、防災の担い手としての意識向上を図った。 また、全校生徒で町会別下校訓練を実施した。 3. 「登校遅刻ゼロ」の取り組みは、25分登校がほぼできてきている。20分ごろから校	

<p>門まで走って登校する生徒の姿は、学校改善が進んできた成果である。一方、遅刻生徒の固定化が見られる。</p> <p>4. 不登校生徒への対応は、生活指導支援員の配置により、別室で学習する生徒への対応の充実を図った。多様な対応が必要な生徒へは、主任会できめ細かい指導体制の確立を図った。</p>
次年度への改善点
<p>学校改善の方策は、学校（教職員）が意図的に、生徒自らが主体的に、学校生活をより良いものに改善していこうとするところに、魅力ある学校へと変革させることができる。その素地ができてきている。生徒が主体的に様々な学びを価値的に創造できる教育内容を推進していく。</p> <p>1. 「人の役に立つ人間になりたい」「学校のルールを守る」全国平均を上回る。</p> <p>2. 道徳教育をはじめ、すべての教育活動で規範意識を高め、人に対する思いやりのある生徒の育成に努める。</p> <p>大阪府中学校道徳教育研究発表会にて、大阪市を代表して発表する。</p> <p>3. 防災教育を意識し、いざという時に、敏速にかつ地域連携できる生徒の育成を図る。</p>

年度目標	達成状況
<p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○ 28年度には、基礎体力の向上を目指し、全国体力・運動能力、運動習慣調査の各種目の結果を大阪市平均以上にする。 (カリキュラム改革関連)</p> <p>○ 全国・学力状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目で毎日食べているを85%以上にする。(5%上昇させる[26年度]) (カリキュラム改革関連)</p> <p>○ 子どもの発達段階に応じて、健康に関する正しい知識等が身につくように取り組む (カリキュラム改革関連)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 体力向上の推進 】</p> <p>基礎体力の向上を目指し、全国体力・運動能力、運動習慣調査では、体力合計点を大阪市平均に近づける。(2ポイント) 特に「長座体前屈」「上体起こし」「立ち幅とび」を重点項目にする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>「長座体前屈」「上体起こし」「立ち幅とび」「立ち幅とび」の項目を昨年度より2ポイント増加。(大阪市平均を上回る)</p>	B
<p>取組内容②【 食育の推進 】</p> <p>食に関する知識と食習慣を身につけるための教育活動を進める</p> <hr/> <p>指標</p> <p>食育通信の発行 10回</p> <p>小中連携した食育推進連絡を行う(年3回)</p> <p>長期休業中 食育調査を行う(2回)</p>	B

<p>取組内容③【健康に関する指導の推進】</p> <p>発達段階に応じた健康に関する指導を系統的に行う。</p>	
<p>指標</p> <p>学級活動、保健体育 総合の時間を活用して、薬物 飲酒、喫煙に関する 学習会を行う (全学年 3回) [外部指導者を含む]</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>○全国体力運動能力・運動習慣等調査において、男女とも体力合計点で大阪市の平均値を超え全国平均値に僅差となった。学校生活全般において、目的意識を持ち取り組む素地づくりを保健体育の授業内で取り組んでいる。その成果として、何事においても真摯に取り組む姿勢が身に付きつつあり、このことが基礎体力の向上につながったと思われる。</p> <p>女子は、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多い。</p> <p>6時間以上の睡眠:92.9%(大阪市 86.8、全国 87.1)</p> <p>朝食を毎日食べる:78.0%(大阪市 72.8、全国 80.6)</p> <p>男子は睡眠時間が少し短く、朝食を摂る時間が確保できない生徒が少し多い。</p> <p>6時間以上の睡眠:88.0%(大阪市 89.8、全国 89.6)</p> <p>朝食を毎日食べる:56.7%(大阪市 76.4、全国 83.2)</p> <p>○「食育通信」を毎月発行できた。</p> <p>○「薬物防止教室」「防犯教室」「喫煙に関する指導」を警察・薬剤師と連携して実施した。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>今後も、全ての教科・領域等の教育活動を通じて、あたりまえのことをあたりまえに取り組むことのできる態度を育成する。</p> <p>保護者に対し食育への意識変革及び基本的な生活習慣の定着など家庭教育の更なる啓発を図る。</p> <p>給食指導を通じて、食育を推進する。</p>	

年度目標	達成状況
<p>【視点 学校・家庭・地域の連携の推進】</p> <p>「地域まるごと なかよしプロジェクト」継続。</p> <p>大和川中学校、遠里小野小学校、山之内小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校、ゆうけい（特別養護施設）を含む関連組織（はぐくみネット、学校元気アップ、連合町会）と連携し、音楽、防災を中心に「地域教育コミュニティ」を推進し、音楽行事を年1回、地域拡大防災訓練を年1回行う。 (マネジメント改革関連)</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【地域防災訓練・大和川清掃への生徒参加】</p> <p>防災教育の一環として、地域防災訓練に参加する。大和川清掃活動を通して、地域と郷土を愛する心を育てる。</p>	A
<p>指標</p> <p>各連合町会主催 防災訓練に生徒 100名参加させる</p>	



地域大和川清掃 4回 実施する	
<p>取組内容②【 地域 音楽祭の開催 】</p> <p>大和川中学校、遠里小野小学校、山之内小学校、建国中高等学校、浪速中高等学校、府立視覚特別支援学校、ゆうけい（特別養護施設）を含む関連組織と連携会議を開催する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各校、組織の音楽関係（吹奏楽部）の部等による音楽祭を開催する。地域参加者 500名予定（1月）</p>	A
<p>取組内容③【 学校・地域連携組織の確立 】</p> <p>地域関連行事を把握し、組織的に教職員、生徒の参加を行い、地域連携を進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間 地域行事に10回参加する（教職員、生徒） （敬老大会、夏祭、地域運動会、防災訓練、クリスマス会等）</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>第3回 大和川地域音楽フェスティバルの開催【平成27年12月23日（祝）場所：大和川中学校体育館】5団体の児童・生徒のつながりを深める取組として、駅前ビラ配布、個別宅ビラ配布を数回、高校生と中学生と一緒に配布し、周知活動を行った。また、音楽祭後、各団体で茶話会を行い、お互いの演奏活動の報告や今後の活動予定などの交流を行った。また、当日の運営司会を中学校の生徒会が行い、児童・生徒の手による地域貢献の取り組みへ更に一歩踏み出すことができた。</p> <p>当日は、区政だよりや配布ビラを見て参加していただいた方や昨年度も来校いただいた方など300名を超える地域の方々の参加がありました。</p> <p>大和川中学校（吹奏楽部、ギター部）遠里小野小学校（おりおのジュニアバンド、お琴演奏）建国中高等学校（吹奏楽部）浪速中高等学校（吹奏楽部）府立視覚特別支援学校（高等部）の120名の音楽関係の部活動の参加。</p> <p><b><u>防災拠点となる学校づくりと 生徒が地域防災の担い手となる人づくり</u></b></p> <p>地域防災教育を推進する行政組織と連携し、地域コミュニティ組織の活性化といざというときの心構えを意識した防災訓練等の実施に向けて取り組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域まつり 吹奏楽部参加 7月</li> <li>○ 地域町会別 震災下校訓練 7月</li> <li>○ 地域防災連絡会開催 9月 （区役所と連携）</li> <li>○ 山之内地域連合町会 防災シンポジウムに参加 10月 （防災訓練中止）</li> <li>○ 地域連携行事参加 9月、（敬老会演奏、地域運動会、地域まつり ）【延べ100名】</li> <li>○ 火災発生 避難訓練 12月</li> <li>○ 大和川地域音楽フェスティバル（本校 体育館 12月 【約300名】</li> <li>○ 消防署と連携した防災リーダー育成研修（本校、2年生全員） 1月</li> <li>○ 大和川地域クリーンキャンペーン 3月</li> </ul>	
次年度への改善点	

今後、「顔の見える地域の輪の拡大と防災での連携を意識した取組を視野に入れ、ゆうけい（特別養護老人施設）地域連合町会、はぐくみネット、学校元気アップ地域本部と地域教育コミュニティを総結集し、地域総合防災連携組織づくりへ発展させていく事業にする。

「災害に強い町づくり」にむけて地域防災訓練への生徒の積極的な参加による地域の担い手としての中学生のあり方を区行政、町会組織と連動して作り上げる。

災害時を想定した地域防災訓練の実施。また生徒が地域別防災訓練への担い手となる取組みへの企画・運営など地域密着の生徒育成の充実を図る。